

〈e〉表6.1 これまでに作成された日本の主な湿地目録

名称	発行年	発行者	対象湿地	収録湿地数	データ項目（属性）					GIS データ	備考	
					湿地名	緯度経度	都道府県	面積	その他			
全国												
1	日本湿地目録	1989	IWRB日本委員会（現・WIJ）	水鳥の生息数/種数が多い湿地、希少な水鳥の生息地/渡来地、日本における水鳥の生息地として特別な価値のある湿地	特に重要な湿地24 重要な湿地51	○	○ （分まで）	○	○	標高・湿地タイプ・環境・植生・土地利用・鳥相・保護と開発	-	『アジア湿地目録』（英文）編纂にあたりWIJの前身であるIWRB（国際水禽調査局日本委員会）が日本部分の原稿執筆を行った。本書は、その資料に日本の湿地のより詳しい資料を加え、日本語で編集・発行を行ったもの。
2	第5自然環境保全基礎調査 湿地調査	1995	環境庁（現・環境省）	陸域・1ha以上・自然成立の条件を原則満たす湿地	2196	○	※	○	○	標高・地形・湿地タイプ・利用状況・人為的インパクト・保護地域の指定・生物生息状況など（個別値は非公開）	○	対象湿地一覧では、都道府県と湿地名のみ公開されており、あとは集計結果が報告書に記載されている。GISデータ（ポイントデータ）の提供も一部のみである。
3	シギ・チドリ類渡来湿地目録	1997	環境庁（現・環境省）	シギ・チドリ類の観察数が一定基準以上の調査地点（海岸・河口・干潟・湖など）	73	○	-	○	-	主な渡来種	-	関連して「シギ・チドリ類重要渡来地域」「日本で観察されるシギ・チドリ類と推定個体数」も発表されている
4	日本全国の湿地面積変化の調査結果	2000	国土地理院	1886年～1924年、および1975年～1997年の5万分の1地形図に示されている湿地記号の範囲	377	○	-	○	○	明治・大正期それぞれの面積と変化量	-	面積合計には名称のない湿地の分が含まれており、これは湿地数にカウントされていない。
5	重要湿地500, 生物多様性の観点から重要度の高い湿地	2001, 2016	環境省	生物の生息地として規模の大きな湿地や希少種が生息している湿地等	500, 633	○	-	○	-	湿地タイプ・生物種別とその生息生育域・選定理由	-	生物種別ごとに重要な湿地が選定されており、選定エリアの中より詳細な生育域が示されている。
6	全国湿地データベース	2020	富士田裕子・李 娥英・孫 仲益・倉 博子・首藤光太郎・小林春毅	原則1ha以上の湿った土地に自然植生が成立している場所。人工湿地や陸域湿地を伴わない湖沼などは含まない	602 (609レコード)	○	○	○	-	湿地名よみがな	○	湿地ごとにIDが振られ、別の文献データベースと連動している。湿地名に階層構造があるため、湿地数よりレコード数が上回る。GISデータはポイントデータ。
地方												
1	北海道湿地目録2016	2019	小林春毅・富士田裕子	北海道内にある1ha以上の自然の湿性植生のある場所	180+5	○	※	○	○	標高・植生タイプ・保護地域の指定	△	空中写真等に基づいて作成。電子データ・GISデータは公開されていない。
2	東海地方湧水湿地目録（2021年版）	2021	湧水湿地研究会	東海地方にある原則50m2以上の湧水湿地	1642	△	△	△	△	標高・保護の指定・所有者・管理の有無・館李靖減の有無・水質・地形・周囲の植生・主な生育動植物・湿地略図など	△	現地調査に基づいて作成。データは原則として非公開とし、概要や統計情報をまとめたものを別途出版している（湧水湿地研究会2019『東海地方の湧水湿地』）

データ項目およびGISデータ： ○あり、△あるが非公開、※項目としてないがGISデータに含まれる、-なし